



UDL 通信

新潟市立小須戸小学校

UDL 推進部

No.4

令和3年7月7日

自分にとってよい学び方を共に考える

UDL 通信No.2では、学習時間と学習方略について触れました。学習方略の方が学習時間より成績に影響すること、学習意欲やメタ認知が高まると、学習時間も長くなっていくことを紹介しました。そして、どのように授業や家庭学習で取り組んでいくかも、まとめました。まとめた内容は下記の通りです。

授業では、

- ・授業のゴールを明確にする。 ・学習意欲を高める工夫をする。
- ・グループワークや話し合い活動を取り入れる。
- ・事前にバリアを見付け、オプションを用意する。
- ・振り返りで、自分がどのくらい理解できたか形成的評価をしたり、どんな学び方をしたかを子どもたちと確認したりする。

家庭学習では、

- ・自分で計画を立てられるように支援する。 ・興味がある課題をやるように促す。
- ・自分に合った学び方や自分に必要な学びに気付ける工夫をする。
- ・学習時間の確保は大事だが、自分に合った学び方の一つと捉える。

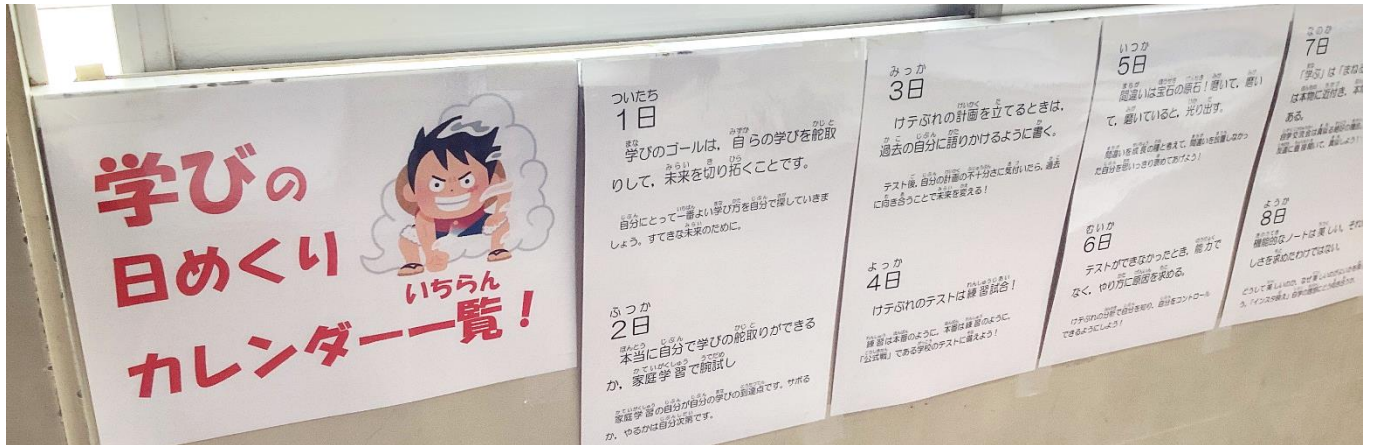
授業では、学習時間は毎日確保されています。ですから、私たちがやるべき授業改革は、学習意欲やメタ認知を高めながら、子どもたちが自分にとってよりよい学び方を選択したり、見付けたりできる環境を整えることだと考えました。

5日実施の「校内授業改善セルフチェック」を見ると、形成的評価を行ったという肯定的評価の割合は、34%でした。さらに、形成的評価を行った教科は算数が圧倒的に多い結果になり、実施した教科に片寄りがあることが分かりました。今後は、メタ認知を促すためにも、形成的評価を行いながら、学習者の状況をモニターして、その後の学習内容や多様な学び方の理解に生かす取組をしていきます。形成的評価をしていない方は、夏休み前までに取り組み、これまでに算数で取り組んだ方は、他の教科でも実践してください。UDL 推進部を中心に、それらの実践で見えてきた成果や課題を夏休み中に整理・分析し、後期への授業改善に生かしていきます。

また、自分に合った学び方は何か考える時間の設定があまり実施されていないようです。今年度提案したばかりなので、これから確かな取組にしていきます。UDL 通信No.2で述べたように、学習方略は子どもたちの成績に大きく影響します。授業の終末では、やりやすい教科から、学習内容の確認だけでなく、学び方の振り返りや意識付けを、毎時間でなくてもよいので、取り組んでみてください。夏休みの研修では、授業改善の視点から「まとめ」や「振り返り」の見直しを行う予定です。

5年生の取組を紹介します。この取組を全校で取り組むのではなく、各学年の実態に応じて、取り組みやすいやり方で実践してみてください。

5年生では、「学びの日めくりカレンダー」を作成し、毎朝日直がカレンダーの内容を伝えることにしています。カレンダーには、学習意欲の高め方や学習方法について書かれています。子どもたちは、カレンダーの内容を試して、自分に合っているか確かめます。年度末までには、自分に合ったオリジナルの日めくりカレンダーが出来上がることを目指しています。



学年の廊下の掲示板「学び王への道」に、自分がよいと思った学び方を付箋に書き、それを貼る取組もしています。子どもたちは、似たような取組が書かれた付箋が2つ以上出たときには、その学び方にオリジナルの名称を付けています。現在は、家庭学習に生かせる学び方が多いですが、授業での学び方にも着目しながら、5年生オリジナルの学び方を増やしていきたいです。

